

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH WEEKLY



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：山田 安隆 幹事：大村 精二

会報委員長：清水 忠

1974・3月28日

第12号

庶民文化のふるさと金沢北

金沢経済大学教授 田中 喜男氏



金沢には四百年にわたって培われた独特の文化的伝統が、地下水のようにひっそりと流れている。

その中で、浅野川によって区切られた北の畏わいは、都心の城郭地区の武家文化に対し、庶民に密着した町民文化の宝庫といえる。

卯辰山裾の寺林には、歌舞伎俳優、加賀友禅、宝生流謡曲、裏千家茶道、春日山窯などの史蹟がひしめき、大衆免から春日町にかけては、金箔、蒔絵、漆芸など人間国宝にふさわしい第一級の工芸作家が、すばらしい仕事をのこしている。

この誇り高き文化の創造と伝承は、われわれ金沢北に住む者の、大きな責務ではないだろうか。

—金沢北RC例会卓話より—

(文責 清水 忠)



かなざわ文学散歩

—“草庵”—

うらやまし 浮世の北の山ざくら
 松尾 芭蕉
 京のこど また口に出る余寒かな
 宮崎友禅斎
 屋の棟に そうて殖えけり 梅柳
 桜井 梅室
 母恋し 夕山ざくら 峰の松
 泉 鏡花
 綻ぶや 雪百日の 傷桜
 西村 公鳳
 白梅の 一ひらにある日のめぐみ
 塩田 紅果
 雲の上に 立山すわる春日かな
 小松 砂丘
 —卯辰山碑林より春の句碑を選ぶ—

私 の 名 刺

岡 田 林 太 郎



明治41年、魚の名産地新湊市の呉服店の五男坊として生れる。父や兄達の仕事の関係上それ等を統括したい考えから大阪工業大学建築科の苦学への道に入りました。然し、事志と異って卒業後縁あって金沢の現在の岡田姓となりました。石川県建築課に勤務、当時として大工事であった第一中学校（現泉丘高校）の新築工事を初め県の工事に色々関係してまいりました。其の後、請われて建設業の長建設に入社し、業者としての第一歩から重役までの経験を経ました。

其の間昭和19年9月召集令状により満洲に配属され、38才の一兵士誕生。そして終戦後9月にソ聯に連行され、ソ聯の思想や社会実状を自分ながらに見聞して来ました。昭和24年7月復員。30年には

長建設が戦後の不況に伴い倒産致しました。当時私が大聖寺営業所所長を致しておりましたので、責任を感じ社員を失業救済の必算で有志と計って北国建設という会社を設立（石置屋根の自宅を模様替をし）し、その後皆の御援助御指導によりまして現在の鉄筋コンクリート3階建の姿になった次第です。現在公職として金沢市建築審査会副会長、東署森山校下防犯委員長、城北地区社会を明るくする会会長、石川県及び金沢市建築士会並びに建設業協会常任理事等々その他のお世話を喜んで東奔西走させていただいている昨今です。

趣味は読書、謡曲、書画観賞、旅行等広く浅くといった程度で、家族は妻、長男夫婦、孫一男一女の六人家族で、健康で明るい家庭をと心がけている日々です。

大 海 徳 二



私は大正6年10月生まれ、出生地は河北郡俱利伽羅村、その昔源平の古戦場として名高い所。縁あって叔母夫婦の家を継ぎ、自動車整備業専一に歩んでまいりました。

戦時中は、昭和12年13年現役を過し、16年には応召により、満洲（モンゴル）、シンガポール、ビルマ、タイと転戦し、殊に激戦であったビルマ撤退にあたっては、天職の自動車操作の技術によって九死に一生をえ、漸く無事にタイ国へ入り終戦を迎えたのであります。

21年7月帰国、戦時中企業統合で中断していた家業をすぐ再開しそして結婚、家族は母ふ志（71才）、妻みつ子（47才）、子供は長男勝栄（26才）、長女外美（24才）、次男栄作（22才）の三人、すでにそれぞれ大

学も終え、長男は家業修業中、長女は仏縁により高野山の寺院へ嫁ぎ、末子もこの三月より就職し親としての責務もあと僅かとなったようです。

くよくよしたとて人生わずか50年（今は70年か）私は朗らかに表裏なく思うがままに生きたいと念願し、結婚の当初から家内に宣言し、幸いその賛同を得て（もっとも家内にいわせると飼育されたのだといいますが）いいたい事を遠慮なくいわせて貰って現在に到りました。お蔭で業界にあっては、いささか正論（？）をはく一員として自負しておる次第であります。

しかし今日、ロータリークラブに加えて頂き、広い世界の良識を知り、立派な先輩友人の方々と親しく交流させて頂く機会をえ、眼の開ける感慨を覚えております。

今後一層の御指導をお願い致す次第であります。

私の考えるロータリー (11)

ロータリー情報委員長 柴田 三郎

—ロータリークラブの機構 (その三)—

ニコニコ委員会……ニコニコ・ボックスは妙味あるロータリーの名物である。この委員が愛想よく意欲的に活動することによって、ニコニコ笑いのうちに会員の浄財が寄せられ、この資金は社会奉仕に限定して有意義に使われるのである。会員の増資、新增築、叙勲、表彰、ロータリーの皆出席顕彰のほかゴルフなどの受賞、その家族の入学、卒業、結婚などの慶事の内祝として寄金されることを希うものである。会員の中には、出していいだろうかと、遠慮されている場合もある。この他に対象となるものはいろいろあろう。それらを上手に引出すのが、この委員の機智であり努力である。ニコ・ボックスへの献金によって容易に社会奉仕の一端が成就される次第。例会の遅刻・早退・欠席の場合の投入は決して罰金ではない。

私の経験から、以上の出席、ニコニコの両委員会に会場監督を加えて横の連繫を密にする**管理部会**を新しく設けることを提唱したい。

職業分類委員会……クラブにはクラブの区域(テリトリー)の実態に応じた“職業分類表”が作られねばならない。而して、新会員候補は先ずこの職業分類の空席充填が順序で、空席のない場合は入会不可能が原則である。特定の人のために職業分類をにわかにな設するのは本末顛倒である。ロータリーは、1業1人の鉄則に立って、クラブ区域内における職業の幅広い横断面を取り入れ、バラエティーに富むよう志向し、努めて大同小異の業種を避けるのが立て前である。年々区域の実態が変転するので、現行の職業分類表を再検討し、毎年8月末日までに新しく作製するよう細則に決められている。この委員会は3名の委員で構成し、同時に全員交替することのないよう、継続性の保持を期することも定められている。

会員増強委員会……職業分類表に基いて、空席の適格者を発掘し、充頼を計るのが役目である。近年R Iの指導によって新設を勧奨された委員会であるが、中小のクラブには無用であらう。

会員選考委員会……会員の選考は極めて重大である。いわゆる有名人、資産の多寡、事業が盛大であるからといったことにとらわれてはならない。あくまでも、ロータリー精神に徹し得る人、誓い得る人、きちょうめんに例会出席をなし得る人が重点条件である。従って新会員候補を紹介せんとする会員もまた慎重・厳しい判断が望ましく、単なる縁古・情実は禁物、ゴルフやマージャンに誘うような軽い気持ちは許されない。新鋭で、将来ある人、若さのある品性高潔、事業上令名ある人が対象であり、老化の人は避けねばならない。

以上の職業分類、会員増強、会員選考の3委員会は深い関連があるので、**会員部会**の形成が効果的である。

親睦活動委員会……会員間の親睦友好を深めることは、ロータリー活動の基本であり、クラブ目的の遂行、ロータリー活動促進の早道である。家族会を含めて、有効、適切、新鮮でシンプル(簡潔)な親睦行事の企画実現が願わしい、下手をすると他の批判を蒙りロータリーの世評を低下する。例会のビジター(他クラブの来訪者)に気拙い思いをさせぬよう、新会員が早くクラブに同化するよう指導努力が望まれる。

近年R Iの指導によって“活動”の2字が何故か加えられた。**親睦部会**を単独で形成するのが妥当のようである。

